

- ◆企画名 秋と言えば…そう！陶芸！
日 程 平成 23 年 11 月 26 日（土）
場 所 信楽陶園たぬき村
参加者数 13 名
目 的

焼き物は古く縄文時代から私たちの生活と密接に関わりあい、欠かせないものであった。現代においても食卓やリビングで食器や花瓶として生活に欠かせないものである。

そこで前回行った「日本の伝統を探る」企画の第二弾として焼き物について学ぶ。今回は知識を身につけるだけでなく実際に陶芸体験を行おうと考えている。

企画の主な目的は以下の 3 点である。

- ①日本の伝統芸を学ぶ
- ②焼き物の知識を深める
- ③実際に体験することによって創造する楽しさを知る



内 容

関西大学総合図書館前に 10 分前には全員そろい、定刻に出発。バスの中でアイスブレイクとして山の手線ゲーム（自己紹介）、心理テストなどを行い盛り上がった。予定より 10 分ほど早く信楽陶園たぬき村に到着。

持参したお弁当を広場で食べる予定だったが、事前に調べていたより場所が遠くバスの中で食べた。周りを散策した後、プレハブにて陶器作りを始めた。湯呑みを作る予定だったが、何を作っても良い旨を聞いたので、各々、作りたいものを作ってもらった（お茶碗、小皿、湯のみ等々）。2 時間の予定であったが、皆の手際によさもあってか 1 時間半で作り終えた。自由時間としてお土産を買ったり、写真を撮ったりした。15 時に信楽陶園たぬき村を出発し、16 時半に関西大学総合図書館前に到着、解散した。

感 想

事前準備に関してスケジュール、備品準備に関しては問題はなかったものの、アイスブレイクの内容があやふやであったり、広場の場所の具体的な位置の把握ができていなかったり、企画の中身に対する準備不足を実感した。当日は作業時間が短くなる、お弁当をバスの中で食べる、など多少の変更点があったものの、今回の目的である「作る楽しさを知る」という点に関しては達成できたのではないかと思う。引率・誘導に関しても問題なかったが、参加人数が 30 人であればどうなっていたか分からない節があったので次回行う際は改善していきたい。

改善点

- ・一般参加者が少なかった。
 - 書類作成などをできるだけ早く行い、告知期間を今よりも延ばす。
 - インフォメーション文を改善する。
 - ビラ配りなど、認知してもらうためのツールを新たに考える。
- ・アイスブレイクの説明が上手くいかなかった。
 - 説明を大きな紙に書き、目で確認してもらう。
 - 実際に実演してみても、それを見てもらう。
 - 何回か練習をはさんでから本番を開始する。
- ・現地での急な変更が多く、対応に時間がかかった。
 - 事前に起こりうることを想定し、それを共有する。

